

ア
ウ
ト
リ
チ

通信



第 32 号

2018 年 9 月 20 日発行
年 2 回発行

神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター

子どものための

コンサート・シリーズ

七夕コンサート

「子どものための七夕コンサート 五色の短冊に願いを」となで奏でる夢のメロディー（「子どものためのコンサート・シリーズ」第五十回）を七月十四日（土）、本学音楽館ホールで開催しました（第一部十一時間演奏、第二部十五時間演奏、来場者数・第一部百三十三名、第二部九十四名、計二百二十七名）。出演は「音楽によるアウトリーチ」履修生を中心に、声楽・



短冊になぞらえて物語にし、影アナウンスとプロジェクターでお話の世界を表現しつつ、舞台上で進行する音楽の世界との二本立てにする形で

進めました。挨拶の後にヨハン・シュトラウス二世作曲（美しく青きドナウ）をピアノ二台八手で演奏しました。ここからある家族（お父さん、お母さん、女の子、男の子、犬の五人）一人一人の願いごとを通して物語を進めていきます。お願いごとが決まらない子どもたちに、お父さんが短冊の色には一つ一つ意味があるということとを教えます。そしてお父さんは青色の短冊（みんなに優しくするという意）にお願いごとを書きます。お父さんのお願いごととして J. S. バッハの（チェンバロ協奏曲 第一番 二短

調）を演奏しました（二台ピアノ）。

次に女の子が黄色の短冊（友だちを大切にするという意）に「お友だちとずっと仲よく楽しく遊ぶこと」とお願いごとを書きます。そこでバーンスタイン作曲のミュージカル《ウェストサイドストーリー》より《素敵な気持ち》で、女の子のワクワクした気持ちを表現しました（ソプラノ二重唱、タンバリン、ピアノ）。ここではタンバリンが登場し、手だけではなく足を使っても叩くことができるということを紹介しました。



続いては犬のポチの願



いごととしてショパン作曲の
《小犬のワルツ》を演奏しました
(ピアノ独奏)。ポチは白い短冊
(決まりごとを守るという意)
に「この街のおまわりさんにな
りたい」と書きました。そこで
ポチの夢を応援するため、会場
の皆様と一緒に《犬のおまわり
さん》を歌いました。



次にヴァイオリンが登場し、
インタビュ
ー形式で弓
や指を使っ
た時の音色

の違いを様々な曲でわかりやす
く紹介しました。その後、ヴァ
イオリンの繊細な音色でマ스ネ
作曲の《タイスの瞑想曲》を演
奏しました。

続いて男の子が紫色の短冊
(夢に向かってがんばるとい
う意)に「運動会のかけっこで一
等賞をとる」と書きます。男の
子が練習で家中走り回る様子を



表現するために、カバレフスキ
ー作曲の《道化師のギャロップ》
を演奏しまし
た(マリンバ、
ピアノ)。こ
こではマリンバ
が木の板と金
属のパイプで

できていること、マレットによ
り音色が違うことを紹介しまし
た。

走るのに夢中になっていた男
の子はお母さんのお皿を割って
しまい、お母さんに怒られてし
まいます。ここでお母さんの怒
った様子を表現するために、モ
ーツァルト作曲のオペラ《魔笛》
より《夜の女王のアリア》を演
奏しました(独唱、ピアノ)。お
母さんはただ怒ったのではなく、
お皿が割れて怪我をしたら大変
だから怒ったのです。お母さん
は家族がいつまでも健康で幸せ
に暮らせますようにとの願いを



込めて赤色の短冊(ありがとう
という意)に書きました。お母
さんのお願いごとを表現するた
めに、マスカー
ニ作曲のオペ
ラ《カヴァレリ
ア・ルスティカ
ーナ》より《ア
ヴェ・マリア》を演奏しました
(独唱、オルガン)。

ここで雰囲気ガラツと変え
て、会場の皆様と一緒に七夕の
由来を知って、体を動かすアク
ティビティをしました。《たなば
たさま》の曲に合わせて五色の
短冊の意味になぞらえた火、水、
木、金、土の五つのリズムで会
場の皆さんとリズム遊びをしま



した。
次にホル
スト作曲の
組曲《惑星》
より《木星》
をトーンチ

ヤイムやマリンバなどの打楽器
やヴァイオリン、二重唱、ピア
ノの編成にアレンジして演奏し
ました。トーンチャイムの音か
ら始まって会場をお空の世界へ
と誘いました。最後は《きらき
ら星》《うみ》《たなばたさま》
の七夕メドレーを会場の皆様と
歌って締めくくりました。

今年の七夕コンサートでは短
冊の色に込められた思いを知っ
てもらいたいということから
「五色の短冊に願いを」という
副題にしました。また曲によっ
て様々なテンポがあり、それが
どんな気持ちを表しているかを
感じてもらうために工夫しまし
た。

終演後にはオルガン、ピアノ、
打楽器、ヴァイオリン、フルー
トの楽器体験コーナーを設け、
たくさんの子どもたちが参加し
てくれました。

(山下優子・記)

西宮市立戸戸幼稚園

六月十四日(木) 十時十五分から西宮市立戸戸幼稚園(西宮市門戸東町三二二十五、園長・阿部久美先生)にて園児対象の「あじさいコンサート」(四十五分)を行いました。(ピアノ・向井千沙都、声楽・草野舞、山下優子、打楽器・山下すみれ。)

盤の数や色のクイズをした後、ショパン作曲「小犬のワルツ」を演奏しました。



マリンバ演奏によるカバレフスキー作曲「ギヤロップ」に続き、マリンバの楽器紹介では、一人でマレットを複数本持つて同



「動物と雨の歌」をテーマに、体を動かして、声を出して音楽の楽しさを感じてもらえるようにプログラムを考えました。初めに、久石譲作曲「さん

ぽ」を皆で歌いました。ピアノの鍵

時にたくさんさんの音を演奏することができるとを上演。驚きと共に拍手が起きました。ロッシーニ作曲「猫の二重唱」では、魚を取り合う猫たちに、「仲よく半分こにして！」と声をあげる園児が多数出て、会場が一体となりました。童謡「かえるの



合唱は、強弱やテンポの変化でいろんなかえるを表現しました。園児たちは私たちの表現をくみ取って、小さなカエルのところでは小さな声で、大きなかえるのところではとても大きな声で一緒に歌ってくれました。



ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」より「ドレミのうた」では、ドはつま先、レは膝というように、

ドレミファソラシドそれぞれの音で表現し、音の高さを感覚で理解できるよう取り組みました。音が次々に変わって難しいところも、皆とても集中して楽しんでくれました。体いっぱい動いている園児たちを見て、私たちもうれしかったです。その後、サン＝サーンス作曲

「白鳥」、モーツァルト作曲「恋とはどんなものかしら」、湯山昭作曲「あめふりくまのこ」を続けて演奏し、皆で「かたつむり」を歌いました。最後に、雨の日も楽しんでほしいという思いから、「雨に唄えば」を演奏しました。



アンコールとして、「幸せな手をとろう」を皆で歌いました。コンサートを通じて、園児たちは私たちの言葉に元気に反応してくれ、私たちにとってもうれしい実習となりました。

(向井千沙都・記)



西宮市立用海幼稚園

七月十九日（木）十時から、西宮市立用海幼稚園（西宮市石在町十七ー二十九 園長・吉田紀子先生）にて園児対象の「サマーコンサート」（四十分）を行いました（声楽・草野舞、山下優子、ピアノ・藤井花織、本田瑠璃、打楽器・山本瑞葉）。

前回の幼稚園実習と同様、子どもたちが親しみやすいように動物にまつわる曲を演奏し、また新たに夏を感じてもらえる曲を取り入れて、コンサートを進めました。プログラムは、童謡からクラシックまでと幅広く構成し、様々な曲の雰囲気を楽しんでももらえたと思います。子どもたちの反応は、一緒に歌うところは全力で大きな声で歌い、じっくり聴くところはとても集中していて、メリハリのある雰囲気でした。

コンサートの導入曲は、久石譲作曲の〈さんぽ〉でした。ジブリ作品『となりのトトロ』でよく知られている曲なので、子どもたちも元氣よく歌ってくれて、とても楽しい雰囲気です。コンサートがスタートしました。



マリンバ演奏では、普段目にする機会が少ない楽器というところもあって、興味を持ってくれた様子でした。演奏曲はカバレフスキー

作曲の〈ギャロップ〉で、体を揺らしながらリズムに乗る子や鍵盤を叩く真似をしている子など反応は様々でした。また終演後にはわざわざマリンバを見学しに来てくれて、このコンサートが子どもたちにとって新しい発見のきっかけになったようでありがいを感じました。

ロッシーニ作曲の〈猫の二重唱〉では、二匹の猫が一匹の魚を取り合い、最後は半分に分けて仲よく食べるという演出にしました。前



回の反省から小道具の魚を大きくし、半分に

やすい演出を心掛けました。猫たちがあちこち動き回って魚を取り合う様子



に、子どもたちはまるでスポーツ観戦をしているような反応で盛り上がりました。アクティビ

ティは前回と同じく、〈ドレミの歌〉で音の高さを感じながら体

を動かしました。音階の名前を知っている子どもが多く、こちらから言わずともドレミの音を言いながら動いてくれて、賑やかな楽しいアクティビティとなりました。最後にアンコール曲〈幸せなら手をたたこう〉を全員で歌ってコンサートを締めくくりました。



用海幼稚園は市の取り決めで閉園が決まっております、今在籍する園児たちで最後だと聞きました。子どもたちが幼稚園で過ごした思い出の片隅に、このコンサートで感じたことや発見したことを覚えていてくれたらうれしいです。

（草野舞・記）

昨年度の学外アウトリーチ

兵庫県立東はりま特別支援学校

三月一日(木) 十三時から、東はりま特別支援学校(兵庫県加古郡播磨町北古田一丁目十七番十七号、音楽教諭・神田幹子先生) 体育館にて高等部三年生を対象に「名曲の調べ」と題してコンサート(五十分)を行いました(ピアノ・渡部里紗、松本祐佳、声楽・上野緑、糸田麻里絵)。

自閉症やダウン症などの生徒が多く、演奏会を聴きに行く機会が少ないと伺い、コンサート



形式で名曲をたくさん聴いてもらって一緒に楽しむことをねらいとして、プロ

グラムを構成しました。

まず初めに、プッチーニ作曲のオペラ《ジャンニ・スキッキ》から《私のお父さん》をソプラノ独唱で演奏してコンサートの幕開けとしました。続いて事前にリクエストを頂いたドビュッシー作曲の《月の光》をピアノ独奏で演奏。次は、ヨハンシュ



トラウス
一世作曲
の《ラデツ
キー行進
曲》を連弾
で演奏し、
曲中に生
徒の皆さ

んにも強弱に合わせて手拍子で参加してもらいました。参加型はとても盛り上がり、会場の空気感も温かくなったように感じました。

次は、ソプラノ独唱でシューマン作曲《献呈》、続いてピアノ

独奏でショパン作曲《華麗なる



大円舞曲》を演奏しました。次は、ミュージカル映画《サウンド・オブ・ミュージック》

の中に出てくる《ひとりぼっちの羊飼い》を三重唱で演奏しました。ピアノ伴奏に加え、踊りや、羊飼いが一人ずつ増えて登場していく演出なども披露し、生徒たちも釘付けで楽しんでいる様子でした。次に、《どこかで春が》

《春が来

た》《朧月

夜》《春》

といった、

春の歌を

詰め込ん

だ《春メド



レー》を二重唱で演奏して、春



の訪れを感じてもらい、続けて会場の皆さんと一緒に《世界に一つだけの花》と東はりま特別支援学校の校歌を歌いました。皆元氣よく歌ってくれて、笑顔いっぱいのお会になりました。

最後に、いのちの大切さや生まれてきたことの素晴らしさを感じてもらいたいというメッセージを込めて、村松崇継作曲《いのちの歌》を二重唱で演奏しました。

元氣で明るく素直な子が多い印象で、反応が身近に感じられとてもうれしく思いました。音楽で心が通じ合えたと思える瞬間を感じ、幸せな時間でした。

(松本祐佳・記)

刀根山病院

三月八日(木) 独立行政法人国立病院機構刀根山病院(豊中市刀根山五丁目一番一号) 一階プレイルームで、「春の訪れコンサート」(六十分)を行いました(ピアノ・城ヶ崎彩圭、太田春奈、松本佑佳、声楽・糸田麻里絵、高橋輝、種村ひかり)。

曲目は、今回のテーマ「春の訪れ」にあわせて、春を感じられる曲や温かく楽しい曲を選びました。

まずは、山口景子作曲(春メドレー)(二重唱)で、春の童謡をよく耳にするものとは一味違う美しいハーモニーで始め、続いて二曲目に、フォーレ作曲の組曲《ドリー》より第一曲(子守歌)(ピアノ連弾)で、優雅な曲を楽しんで頂きました。三曲目は少し雰囲気を変えて、松任谷由美作曲(赤いスイートピー)

ー)をピアノ独奏でお送りしました。



四曲目は、モーツァルト作曲のオペラ《フィガロの結婚》より《スザンナとマルチェリーナの二重唱》でオペラの雰囲気を楽しんで頂けるようにオペラのけんかのシーンを再現しました。



アクティビティでは会場全体で簡単なオリジナル体操を交えた《ラジオ体操》をピアノ演奏に合わせて行いました。

体をほぐした後
の五曲目は、グノー作曲のオペラ《ロミオとジュリエット》よりジュリエットの aria(わたしは夢に生きたい)(独唱)、六曲目は千原英喜作曲(はっか草)(独

唱)と曲調の全く違う二曲を配置しました。

七曲目は少し雰囲気を換え、ビゼー作曲のオペラ《カルメン》より《前奏曲》(ピアノ連弾)を明るく華やかにお届けしました。続いて八曲目は、同じく《カルメン》より《ジプシーの唄》(独唱、踊り)をオペラの雰囲気を出すためにフラメンコと



もにお送りしました。
フラメンコをとっても喜んで頂けたようでした。
九曲目は、ドビュッシー作曲《月の光》(ピアノ独奏)で美しいピアノ曲をお届けしました。

最後は、《みんなであうたおう》と題し、《さくらさくら》(春の小川)《ふるさと》の三曲を

会場全体で歌いました。

メンバー紹介をした後、アンコールを頂けたので、見岳アキラ作曲《川の流れるように》を会場の皆様と一緒に歌いました。来てくださった方の中には、毎年楽しみにしてらっしゃる方もあったようで、それは、今までこの会場でコンサートを行っ



てきた先輩方のお力です。
私たちが行ったものも、そうやって後輩たちに引き継いでいけることを願っています。

(城ヶ崎彩圭・記)

十年間の活動を振り返って

アウトリーチ五期生

アンサンブルちようちよ

谷田奈央

大学卒業時に「音楽によるアウトリーチ」を共に履修した仲間と四人で結成した音楽グループ「アンサンブルちようちよ」

(声楽・谷田奈央、フルート・今井さつき、ピアノ・白坂亜紀、

西村遙子)は、昨年グループ結

成十周年を迎えました。こ

れまで二百四

十回の依頼公

演と七回の自

主公演を行っ

て来ることが

できた背景や



私たちはグループのよさを最

大に発揮できる場所は保育園や

幼稚園での子ども向けコンサ

トだと考えました。一つ一つの

公演依頼に対して真剣に取り組

むことで、園長先生や保護者の

方を中心に

たくさん

新しい公演

先をご紹介

頂きました。

これは、グル

ープの方向

性を早い段

階で決めていたことが多数の公

演依頼に繋がったと考えます。

また、グループでの活動は趣

味ではなく仕事という意識をメ

ンバー全員が共有し、毎週ブロ

グやホームページの更新を行

常にグループの活性化を心がけ

てきました。

ここに至るまで、メンバーの

結婚や転勤、出産など、女性な



らではの問題も多くありました。

メンバーの調整が難しい期間は

ヴァイオリンやオーボエなど外

部奏者に加わってもらって、普

段の私たちの公演では聴けない

編成を作り上げること、リピ

ーターの方々からも喜んで頂

きました。

今年三月、神戸市のプラザ本

山にて十周年記念コンサート

を開催した際には、この十年間

の活動で子どもたちに人気のあ

った曲と私たちのお気に入りの

曲を中心にプログラムを組み、

息の合った演奏をお届けすること

ができました。

た。当日は

それぞれの

ママ友たち

のクチコミ

効果も大き

く、立ち見

が出るほど

の盛況とな



りました。

メンバー全員が母となり、子

ども向きコンサートを考える上

で母親の目線からも新しいプロ

グラムやアイデアを考えられ

るようになりました。事前リハ

ーサルでは自分子どもたち

にも生の音楽を聴かせ、本番前

に子どものダイレクトな反応を確

かめることもできたりと、親子

で活動を楽しんでいます。

音楽活動と家庭との両立は難

しいことも多いですが、子ども

の成長と共にグループも新しい

可能性を求めて邁進して行きた

いと思います。



アンサンブルくれよんの

活動について

アウトリーチ十四期生
アンサンブルくれよん
樋口成香



した。メンバー全員が大学院へ進学したため、二年間で様々なことに取り

組みました。「どうしたら私たちを知ってもらえるのか、どうしたら演奏の場が頂けるのか」と一つのことを丁寧に見事にメンバー全員で考え、少しずつ進んできました。



私たちはモットーとして「聴いて、見て、感じて、体験して」です。基

本的な事柄ですが、これらを限られた時間と空間でいかに実現させるのかということには、綿密な計画が必要だと実感しています。また、メンバーに声楽がないことに悩み、「楽器の奏でる音色や歌だけでもっと惹きつける音楽をするにはどうすればよいのか」ということについて



もいつも気にかけています。毎回メンバー全員でプログラムに試行錯誤しますが、実際に現場で聴いて下さる方々の反応を大切に、経験を積み重ねていく中で私たちの強みや色

が確立されつつあると感じています。この春に大学院を修了してそれぞれの生活スタイルができ、学生の時のように頻繁に集まることはできなくなりました。四人で集まれる時間が貴重で短いからこそ、全員の意識が変わり、現在は更に有意義な時間を過ごせています。そして、施設での定期的な演奏活動や依頼演奏を少しずつ頂けるようになりました

た。

十二月には神戸女学院の「子どものためのクリスマス・コンサート」に出演します。サントさんがクリスマスまでの一年、どうやって過ごしているのかをお話と音楽で楽しんでもらうコンサートです。また、来年三月にグループ結成三周年となることを記念し、自主公演も計画中です。

まだまだ模索中ですが、私たちの色や音楽を今後も追求し、皆様の心に残るような演奏をたくさんお届けできるように活動が続けていきたいと思っています。今後とも「アンサンブルくれよん」にご期待頂けたらうれしいです！

アンサンブルふるーの

活動について

アウトリーチ八期生

アンサンブルふるーの

小幡文香

私たち「アンサンブルふるーの」(フルート・木村友香、ピアノ・岡崎典子、小幡文香)は、二〇一〇年卒業後に結成以来、主に高齢者施設、病院、幼稚園で活動を行ってきました。

しかし、たまたま三人が同時に結婚、出産と続いたため(一人は遠方へ)、三人での活動を継続させることがむずかしくなり、二〇一三年八月のサンシティ高槻でのコンサートを最後に活動休止状態となりました。本来であれば家庭と音楽を両立することが理想であり、家庭を優先しつつも誰かが強引にでもリーダーシップをとって活動を継続すべきだったかもしれませんが、

なかなかそうはいかず現在のよ
うな状況となっています。

活動再開の見通しは立っていませんが、今後自分たちの子どもが通う幼稚園や小学校等で、個々が何らかの形で音楽に携わり、いつか私たちの原点でもあるこの「アンサンブルふるーの」の活動を再開し、たくさんのかい笑顔を咲かせに音楽をお届けしたいです。



アンサンブルひだまりの

活動について

アウトリーチ十五期生

アンサンブルひだまり

荒木この美

「アンサンブルひだまり」は、大学四年生の時、アウトリーチ履修生四名(声楽・荒木この美、作曲・信田亜美、ピアノ・金丸史奈、森口真美)で結成しました。

結成が決まったのが卒業間近の三月だったので、卒業後すぐ、コンセプトや活動の目標などを決めるべく、何度かミーティングをしました。また「ひだまり」のイメージにふさわしいような宣材写真の撮影等も行いました。しかし、私たちには大きな課題がありました。それは、それぞれの進路についてでした。四人のうち二人は大学院音楽研究科への進学、そして一人は一般



企業への就職、もう一人は教育現場へ。互いに異なった環境での新生活が慌ただしくスタートし、アウトリーチ活動に充てる時間が取れなくなりました。

大学卒業から二年、そろそろ「アンサンブルひだまり」の活動再開を考えたいと思います。互いの環境が壁になっていたからこそ、今度はそれぞれの環境で得た知識や経験を活動に生かせるような、今までの弱みを強みに変えられるグループとして、病院や幼稚園等に向けて音楽を、そして心にひだまりをお届けしたいと考えています。

今後の活動

第九回 音で遊ぼう！ 子どものための

音楽作りワークショップ

第九回「音で遊ぼう！子どものための音楽づくりワークショップ」を九月十五日（土）に音楽館ホールで開催します（九時～十六時）。

これは、東京音楽大学との連携事業の一環として、英国ギルドホール音楽院修士課程「リーダーシップ・コース」修了生の三名を講師に招いて、学生・卒業生及び一般人を対象とする「音楽作りワークショップ特別研修」を九月十二日（水）から四日間実施し、その仕上げとして最終日に近隣の子どもたちを招いて行なうものです。

昨年同様、オリヴィア・ブラッドベリー（英国人の歌手、作曲家）とジェームズ・アダムズ（英国人のマルチ・プレイヤー

で作曲家）の二名を日本に招聘し、同じく同コース修了生の東瑛子（ヴァイオリン、本学卒業生）も加わって、三名で指導に当たり



生も加わって、三名で指導に当たり

ます。

二〇〇七年にスタートした「音楽作りワークショップ特別研修」と「音で遊ぼう！子どものための音楽づくりワークショップ」とを組み合わせる試みも、今回が九回目となります。

老若男女を問わず誰もが持っているクリエイティブな力を音楽によって引き出し、共に構築しながら音楽を生み出していくというワークショップの手法は、人間に秘められたクリエイティブな力に対する再発見と信頼をもたしらしてくれます。関心のある方はぜひご参加下さい。

子どものための

スペシャル・コンサート

「子どものためのスペシャル・コンサート〜ハープの魅力を満喫しよう！〜」（「子どものためのコンサート・シリーズ」第五十一回）を十月十三日（土）に本学講堂で開催します（十四時開演、六十分公演、三歳以上入場可）。

出演は、日本を代表するハープ奏者の木村茉莉を中心に、寺澤彩（本学非常勤講師、本学卒業生）と岩本紗綾（本学大学院二年生、愛知県立芸術大学卒業）の若手二名が加わって、マルセル・トゥルニエの〈四つのプレリュード〉（二台ハープ）、ガブリエル・フォーレの〈子守歌〉（三台ハープ）、黛敏郎の〈ROKUDAN〉（ソロ）など、ハープの名曲を多彩な編成でお届けします。終演後の楽器体験

コーナーでは実際にハープに触れることができます。あなたも、ハープの魅力を満喫してみませんか？



子どものための

クリスマス・コンサート

「子どものためのクリスマス・コンサート」音で楽しむおはなしの世界『あのね、サンタの国ではね…』（「子どものためのコンサート・シリーズ」第五十二回）を十二月八日（土）に本学講堂で開催します（第一部十三時、第二部十六時開演、各六十分公演、第一部は年齢制限なし、第二部は小学生以上入場可）。出演は「アンサンブルくれよん」（アウトリーチ十四期生、本紙八頁参照）の四名（フルート・田中佑奈、オーボエ・樋口成香、ピアノ・丹野桃子、和田悠加）です。クリスマスにちなんだお話を軸とする楽しいプログラムで、演奏曲目にはアンダーソン（「そりすべり」やドビュッシー（「ゴリウオーク」のケークウオーク）他が予定されています。どうぞご期待ください。

お知らせ「子どものためのコンサート・シリーズ」第五十回記念クリア・ファイル

本学の「子どものためのコンサート・シリーズ」がこの夏の七タコンサートで第五十回を迎えたことを記念してクリア・ファイルを作成しました。

この夏の異常気象は誰もが実感したことと思いますが、「子どものための七タコンサート」も受難続きでした。

まず、六月十八日の大阪北部地震の影響で講堂での開催が不可となり、音楽館ホールへの変更を余儀なくされました。会場のサイズ違いによる大幅な定員減のため、一旦全ての申込者を謝絶した上で、抽選によって入場可能者を選んで再通知をしました。このため本来六百人近い申込者があったのを、大幅に絞らざるを得ませんでした。

入学した時から（あるいはそれ以前から）講堂での七タコンサート出演を夢見てきた学生たちは、ショックで皆泣き出し、音楽館ホールには大オルガンもなければ舞台のサイズも異なるので、曲目やお話しも手直ししなければならず、大変なことになります。

ところが、これでは終わらせませんでした。西日本豪雨のために七月五日（木）午後から全学休講となり、出演者やアウトリーチ・センター・スタッフの中にも大学まで出て来ることができない人があって、予定していた七月七日

（土）の開催は不可能となりました。何年に一度しかない七タ当日のコンサート、

これまで一度として七日を過ぎて開催したことのない七タコンサートでしたが、泣きながら準備を進めてきた学生たちに舞台に立つ場を持たせてやれないかという関係者一同の思いが実つて、七月十四日（土）にようやく実現することができました。

こうして日

の目を見た記念ファイルは、当日の来場者に出演学生たちから直接手渡された他、抽選に漏れた申込者の皆さんにも郵送でお届けしました。

これらの膨大な仕事を短期日に着実にやり遂げてくれたセンター・スタッフに心から感謝しています。

（アウトリーチ・センター長、

津上智美）



♪ 今後の予定 ♪

◎アウトリーチ

2018 年 11 月 1 日(木) 西宮市立子育て総合センター 附属あおぞら幼稚園
 2018 年 11 月 3 日(土) 野木病院
 2018 年 11 月 15 日(木) 国立病院機構兵庫中央病院
 2018 年 11 月 22 日(木) 西宮市立鳴尾北小学校
 2018 年 12 月 14 日(金) 雲雀丘学園小学校
 2019 年 3 月 国立病院機構刀根山病院(日程調整中)

◎ワークショップ

「第 9 回 音で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ」

日時:2018 年 9 月 14 日(土) 9:30~16:00
 場所:神戸女学院大学音楽館ホール
 講師:英国ロンドン市立ギルドホール音楽院リーダーシップ専攻修了者
 対象:小学生・中学生・高校生 先着 40 名
 参加費:無料
 応募方法:アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第 51 回 子どものためのスペシャル・コンサート ～ハープの魅力を満喫しよう！～」

日時:2018 年 10 月 13 日(土) 14:00 開演※3歳未満のお子様のご入場はご遠慮ください。
 会場:神戸女学院講堂
 出演:木村茉莉 (ハーピスト、音楽学部非常勤講師)
 寺澤彩 (ハーピスト、音楽学部非常勤講師)
 岩本紗綾 (ハープ専攻、大学院音楽研究科生)
 入場料:大人 1000 円、子ども(19 歳以下)500 円
 応募方法:アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

◎子どものためのコンサート・シリーズ

「第 52 回 子どものためのクリスマス・コンサート ～音で楽しむおはなしの世界～『あのね、サンタの国ではね…』」

日時:2018 年 12 月 8 日(土)
 第1部 13:00 開演(年齢制限なし、未就学児対象)
 第2部 16:00 開演(小学生以上対象 ※未就学のお子様は入場できません)
 会場:神戸女学院講堂
 出演:アンサンブルくれよん
 田中佑奈 (フルート)、樋口成香 (オーボエ)、丹野桃子・和田悠加 (ピアノ)
 入場料:大人 500 円、子ども 300 円
 応募方法:アウトリーチ・センターのホームページをご覧ください。

音楽をお届けします！！

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場ですてきな音楽のプログラムをお届けします。

♪ 小中学校へ:総合的学習支援プログラムとして、

子どものための楽しい体験学習を！

♪ 病院や美術館へ:催しの趣旨に沿った手作りの音楽

プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター(月～金 10:00～15:00)
 〒662-8505 西宮市岡田山 4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551
 E-mail:outreach@mail.kobe-u.ac.jp http://www.kobe-u.ac.jp/musicdp/outreach/

編集後記

今年は新スタッフとともに、履修生の皆さんをサポートしています♪後期からは学外での実習活動が目白押しです！(森)

今年度から勤務しています。大好きな授業にまた関わられて、うれしいです！よろしくお願いします♪(丹野)

2002 年にスタートした「子どものためのコンサート・シリーズ」も早 50 回！かつての聴衆が成長して出演するまでになりました。(津上)